

(7) 総合的視点で取り組む環境の保全と創造

表2-139 富山・高岡地域公害防止計画の概要

区 分		内 容
地 域 範 囲		富山市、高岡市、新湊市、婦中町
承 認 年 月 日		12年2月24日
計 画 期 間		11年度～15年度
環 境 目 標	大気汚染、水質汚濁、騒音	環境基準
	振 動	大部分の住民が日常生活において支障がない程度
	悪 臭	大部分の住民が日常生活において支障がない程度
	土 壌 汚 染	土壌汚染対策地域の指定要件に該当しない程度
主な公害防止計画事業		<ul style="list-style-type: none"> ・ 下水道の整備 ・ ごみ処理施設の設置 ・ 浚せつの実施 ・ 農用地土壌汚染対策 ・ 監視測定施設等の整備
計 画 事 業 費	地方公共団体が講じる対策	2,504億円（公害対策2,009億円、公害関連495億円）
	事業者が講じる対策	61億円
	総 額	2,565億円

表2-140 富山県環境影響評価要綱に基づく環境影響評価の実施状況

No	事業名	事業種類・規模	準備書	説明会の開催	知事意見の提出	評価書
1	大山カメラ カントリークラブ	レクリエーション施設 (ゴルフ場140.2ha)	提出 3年6月5日	6月15、17、18日	11月7日	提出 3年11月21日
			縦覧6月6日～7月6日			縦覧11月22日～12月24日
2	利賀リゾート開発	レクリエーション施設 (スキー場172.3ha) (ゴルフ場198.9ha)	提出 4年7月28日	8月10、11日	12月28日	提出 5年3月25日
			縦覧7月29日～8月29日			縦覧3月26日～4月26日
3	富山駅北地区 熱供給事業	熱供給事業 (最大排出水量12万m ³ /日)	提出 5年11月11日	11月26、30日	6年3月31日	提出 6年5月9日
			縦覧11月12日～12月13日	12月1日		縦覧5月10日～6月10日
4	富山地区広域圏 ごみ処理施設建設 工事	ごみ焼却施設 (焼却能力270t/日/ 基×3基)	提出 10年6月19日	7月4日～	10年11月27日	提出 11年2月23日
			縦覧6月22日～7月21日	7月17日 (7回開催)		縦覧2月26日～3月25日

表 2-141 県が企業と締結している公害防止協定

締結企業 (工場)	締結企業の業種	締結年月日
三井金属鉱業(株)(神岡鉱業(株))	鉱業	47年3月30日 (61年6月30日承継)
日鉱三日市リサイクル(株) 黒部日鉱ガルバ(株)	産業廃棄物処理 非鉄金属	48年6月23日 (60年3月25日承継) (8年11月1日承継) (9年4月1日承継)
北陸電力(株) 富山共同火力発電(株)	電力	48年8月30日 (54年3月15日改定) (57年7月5日改定) (60年3月25日変更) (63年3月30日変更) (14年2月12日変更)

図 2-12 環境情報管理システムの構成と処理機能

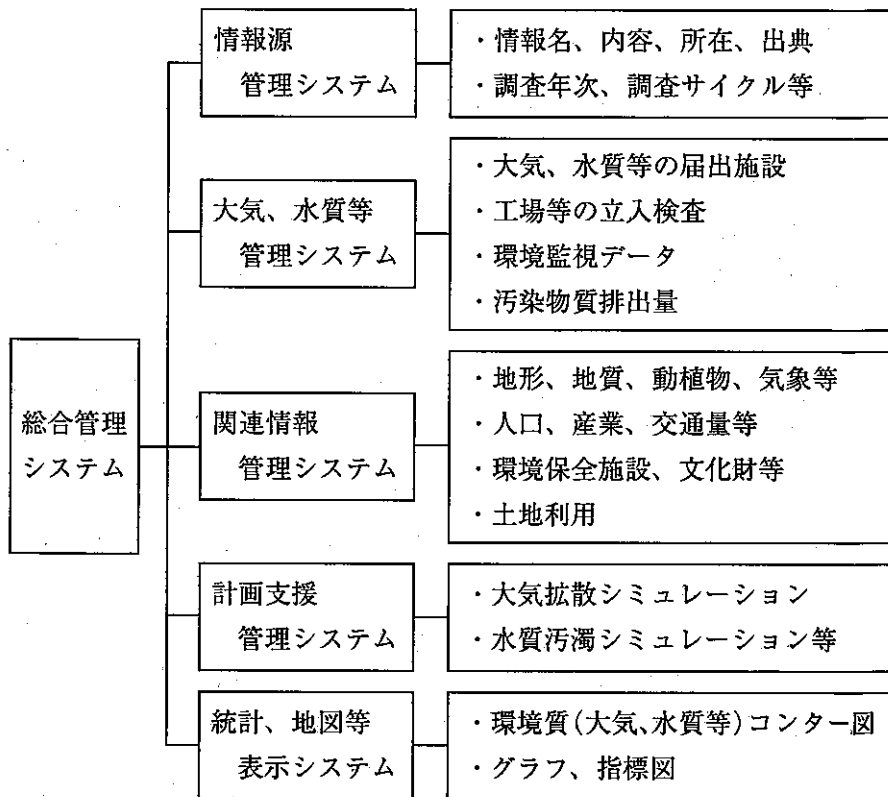


表2-142 環境保全に関する試験・研究

(1) 環境科学センター

課 題	目 的	結 果
樹木による大気浄化作用に関する研究	樹木による大気浄化能力の検討	樹木の蒸散速度から、その大気汚染物質吸収量について検討した。
酸性降下物の影響因子に関する研究	酸性雨の影響因子についての検討	山岳地帯において酸性雨の通年調査を行い、酸性雨の影響因子について検討した。
酸性雨による金属腐食に関する研究	酸性雨による金属材料等の腐食に及ぼす影響因子の検討	酸性雨による文化財等への影響を把握するため、各種金属板の腐食量と酸性雨等との関係について検討した。
化学物質の測定方法に関する研究	化学物質の測定方法の検討	環境水中のエストラジオール類5物質について固相抽出法による測定方法を検討した。
海域の富栄養化に関する研究	AGPを用いた海域の富栄養化の検討	事業場排水が海域に与える影響についてAGP（藻類生産潜在能力）を用いて検討した。
湖沼における水質特性とプランクトンに関する研究	水質特性やプランクトン等からの湖沼の特性の検討	祐延ダム貯水池において、水質組成とプランクトンの関係や水域周辺の環境状況等を調査し、湖沼の特性について検討した。
産業廃棄物最終処分場の安定化に関する研究	閉鎖後の最終処分場の安定化の検討	最終処分場からの有機物や金属類等の浸出状況、ガスの発生状況及び浸出水量の調査を行い、閉鎖後の最終処分場の安定化について検討した。
騒音レベルの面的評価に関する研究	騒音レベルの面的評価方法の検討	自動車騒音の実態を測定し、それをもとに騒音レベルの面的な評価方法について検討した。
廃棄物の循環利用に関する研究	生ごみ等の推肥化の処理条件等の検討	生ごみ等の推肥（コンポスト）化の熟度や品質を測定し、処理条件等について検討した。

(2) 衛生研究所

課 題	目 的	結 果
不快昆虫の多発防止対策の調査研究	環境の変化により多発する不快害虫などの発生防止・駆除対策に関する継続的検討	宅地化が著しい水田地域と、森林が残存する丘陵地域の畜舎において、吸血に飛来する蚊類を比較して、環境の変化（単純化）に伴う、蚊類の種類構成に及ぼす影響を引き続き調査したところ、丘陵地では蚊数は少ないが、蚊種が多いことが再確認された。
食品中の残留農薬及びその他の有害物質に関する調査研究	残留農薬等による食品の汚染状況の継続調査	県内主用農産物6種17検体について、有機リン系など71農薬を分析したところ、全てが基準値以下であり、食品衛生上問題となるレベルではなかった。 富山産魚介類のかつお等18種20検体について総水銀を、ひらめ等10種10検体についてトリブチルスズオキサイドをそれぞれ分析したところ、いずれも問題となる残留値ではなかった。
イタイイタイ病に関する研究	カドミウム汚染とイタイイタイ病の予防	神通川流域住民の尿中カドミウム濃度の推移を検討した。平成9年度の50歳以上の検診受診者全員について尿中カドミウムを測定し、この結果を20年前の同年齢の成績と比較したところ、現在の尿中カドミウム濃度が有意に低値を示した。
環境汚染物質と生体影響に関する研究	環境化学物質の生体内暴露評価に関する検討	これまで毒性が低く、残留性がないとされてきた有機リン系農薬の尿中代謝物が、農業従事者だけでなく非農業者においても検出された。そこで、有機リン系農薬の体内残留の有無をみるため、ヒト脂肪組織のサンプル収集を始めた。現在までに得られた8検体の分析の結果、有機リン系農薬が同定されたものはなかった。

(3) 工業技術センター

課 題	目 的	結 果
高分子材料の識別技術に関する研究	プラスチック材料の分別技術について研究する。	近赤外分光とニューラルネットワーク解析法によるポリエチレン密度の迅速測定、塩ビ樹脂中の可塑剤の識別、量的測定ができることを認識した。
廃棄塩化ビニル利用技術の開発	PVCのリサイクルと環境への負荷低減技術の検討を行う。	木粉等とPVCの複合材について、配合量や諸条件による物性について検討を加えるとともにガーデニングディスプレイ台等の試作を行った。
廃棄プラスチックの複合化リサイクル技術の研究	プラスチックリサイクル技術、生分解プラスチックの複合化技術の開発を行う。	生分解性プラスチック不織布を用いた土嚢袋、雑草抑制シート、畦畔管理用シート（農業技術センターと共同）の試作開発を行った。
繊維・高分子のリサイクルに関する研究	繊維やエラストマーのリサイクル技術の開発を行う。	高温高圧処理による繊維のモノマー化、有価物への変性・回収の検討及び塩ビ代替材料の粘弾性挙動に関する基礎的検討を行った。
微生物を利用した環境有害物質の除去システムの研究	有害化学物質の分解処理システムを構築する。	ビスフェノールAなどの環境ホルモンの分解に白色腐朽菌が適用可能であることを確認した。
はんだの鉛フリー化に伴う金属基板の信頼性向上の研究	実用上、有望視されている鉛フリーはんだについて実装上の課題について研究する。	鉛フリーはんだを金属基板に用いた場合、はんだ接合部及び実装デバイスに熱サイクルによる応力変動を弾塑性クリープ有限要素解析により評価し対応策について検討した。

(4) 農業技術センター農業試験場

課 題	目 的	結 果
カドミウム汚染田復元後の客土水田における施肥改善効果等に関する調査	復元後の客土水田地帯の稲作の安定化を図るため、水稻栽培指針の実証展示を行う。	神通川流域(4カ所)、黒部地域(4カ所)の客土水田地帯に設置された実証展示ほ場で、栽培指針に基づき水稻を栽培し、肥料や土壌改良資材の施用効果について調査、確認を行った。
カドミウム汚染田復元後の客土水田の安全確認調査	復元後の客土水田について汚染が除去されたことを確認する。	神通川流域及び黒部地域の客土水田を対象に、代表地点から玄米や土壌を採取しカドミウム濃度を調査して、汚染が除去され安全な農地に復元されたことを確認した。

(5) 水産試験場

課 題	目 的	結 果
赤潮に関する調査	赤潮の発生状況の把握	5月15、17日に夜光虫による赤潮、7月16日～18日に珪藻(キートセロス、スケルトネマなど)による赤潮を確認した。発生海域は、5月15日が宇波から大境沖、5月17日が滑川から魚津沖、7月16～18日は氷見から黒部沖であった。
富山湾の底生生物の調査	底生生物から見た富山湾底質の汚濁状況の把握	富山湾沿岸域8箇所にて採泥を行い、底生生物の種類数、現存量の調査を行った。汚染指標種が確認された定点もあった。しかし、2～3個体でそれらが優占種となることはなく、定質の汚濁が進行した定点は無かった。

(6) 林業技術センター林業試験場

課 題	目 的	結 果
酸性雨等森林影響予察に関する調査	酸性雨等による影響予察のための森林環境の現状把握	定点調査地で酸性雨実態調査、森林土壌調査、森林健全度調査等のモニタリング調査を行い、森林環境の実態を明らかにした。

(7) 畜産試験場

課 題	目 的	結 果
未利用資源を活用した堆肥化処理技術及び悪臭低減技術の確立	家畜ふん堆肥化処理における副資材適性の検討	牛ふんの堆肥化処理に、杉林地残材やダム貯留枝葉のチップを副資材にした場合の発酵特性が、従来のオガクズと同様なことを明らかにした。
重金属など環境負荷物質排泄量を低減するための豚の栄養管理技術の開発	豚からの銅・亜鉛等重金属排泄量を低減するため、飼料中の重金属の適正水準を検討	豚糞中への銅の排泄量は、飼料中含量の増加に比例して多くなることが明らかになるとともに、離乳子豚期では、飼料中の濃度によらず、日齢が進むと血中の濃度は低下することが判明した。